

「子どもたちが身を乗り出して聞く道德の話」を活用して・・・



1958年に開始された「道德の時間」は、開始当初は教科外活動でしたが、60年経った2018年から、「道德」が教科化されました。

子ども達が『心』を育む力は、これからの時代を生き抜く上でますます大切になってきています。

AIやデジタル技術が進化し、情報が溢れる現代だからこそ、他者を思いやる心や正しい選択をする力が求められています。

道德教育は、こうした力を育むための重要な柱であり、保育の現場でも欠かせない存在です。

さて、道德というと小学校から始める教育というイメージですが、私はむしろ幼児期にこそ必要なものだと考えています。

はじめて社会生活を体験する園という場で、子どもは多くのことを吸収します。

特に、自分だけではなく人のために何かをする「**奉仕**」、自分が自分を好きになる（尊敬する）「**自尊**」、自分を制しルールを守る「**自律**」など、正しいことを知るのは心の成長にも大切です。同年代や年の近い友達、大人との関わりや共同生活をしていく上で、道德は欠かせないものです。私が年長担任をしていた頃（もう10年前です）、道德についていろいろと調べていく内に一冊の本に出会いました。『子どもたちが身を乗り出して聞く道德の話』という本です。

本の内容は、「道德」を子どもに対してどうわかりやすく伝えるかで、イラストや実際に子どもへの話し方の例が載っており、まとめられているものです。

道德というまず「何を知らせるか」が先行しがちですが、子どもにわかりやすく伝えるということを考えれば、「どう伝えるか」が最も大切なことだと思います。

私が道德を子ども達と行う時には、以下のことを心掛けています。

- ① 大人が子どもに教えるのではなく、共に考えること
- ② 言葉をなるべく少なくし、子どもの心に残る「フレーズ」を使うこと
- ③ イメージしやすいように絵を描くこと

例えば、自尊の話では「自分の行動を見ているもうひとりの自分」として目玉のおやじが出てきます。

自分の中に「行動する自分」と「見ている自分」があり、他人にバレなくても目玉のおやじは見ています。

いけないことばかりでなく、もちろんいいところも見ている。

目玉のおやじに「君も頑張っているね」と認められることで、自尊の心が強くなり、自分のことを好きになれる。

と言う具合にイラストとキャラクターを使うことで、子ども達にも、よりわかりやすく伝わります。

今後も「楽しくわかりやすく」をテーマに道德（心育）を子ども達と共に考える機会を作ります。また私達職員も今一度、日頃の生活を客観的に振り返り、モラルを保ちながら良い見本となっていきます。

（中野）

参考文献

『子どもたちが身を乗り出して聞く道德の話』

著 者：平 光雄

出版社：致知出版社

